

Title	新技術・新製品に関するイノベーション・プロセスの分析-キャノン・レーザービームプリンタの事例-
Sub Title	
Author	船木敏江(Funaki, Toshie) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1997
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1997年度経営学 第1376号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001997-1376

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新技術・新製品に関するイノベーション・プロセスの分析 —キヤノン・レーザービームプリンタの事例—

ハイテク製品の研究開発を成功に導くメカニズムを探るために、圧倒的な市場地位を獲得したキヤノンのレーザービームプリンタ(LBP)事業を事例として取り上げ考察する。

ハイテク製品の研究開発を成功に導くメカニズムとは、いかなるものかを明らかにするために、キヤノンのLBP開発経緯の確認およびプリンタ市場の分析を行なう。その上で、筆者が示すキヤノンLBP事業成功のメカニズムについての作業仮説<(序章末参照)>を裏付ける具体的な成功要因を特定し、体系化を試みる。最後にキヤノンのLBP事業の成功のメカニズムは、他のハイテク製品や競合他社に関しても一般化できる普遍的なものであるのかという視点で考察する。

長期的な優位性を確立するためには、高品質・高価格の新製品を他社に先駆けて市場に投入すること、さらに新技術を自社が得意とする既存の独自技術を融合させて、さらに独自性を高めていく技術戦略が大変有効であることが、キヤノンのLBP事業から明らかになった。

以上の2点を可能にする組織のあり方は、以下のとおりであるという結論に達した。

- (1) 独創性を追求する組織風土
- (2) 迅速かつ柔軟な対応を可能にする組織
- (3) 開放的な事業展開
- (4) (1) (2) (3) を推進するトップマネジメントの存在